宮柊二記念館だより

2017.10.31
第47号
発行　宮柊二記念館
TEL・FAX
025−794−3800

オープニングセレモニー（平成29年5月）

魚沼は紅葉・・・

七月十八日、「線状降雨帯」直下の堀之内は朝から大雨に見舞われました。降り続く雨は昼過ぎになっても止まず、午後二時、三時頃には魚野川の支流である西又川、与越川などの小河川が氾濫、これまでに無い上流からの溢水により地域を混乱させました。当館に隣接する市役所堀之内庁舎駐車場も同様に一面水浸しとなりました。さいわい当館は直接の被害は無く大事には至らなかったものの、あらためて水害の恐ろしさを感じさせられたところです。

さて、開館二十五周年となる今回の企画展は「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」、前期分として第一歌集『群鶏』から第六歌集『多く夜の歌』までを展示しており、後期の十二月からは第七歌集『朦棚の下の小室』から第十二歌集『日秋陶像』までを予定しております。

おかげさまで春以来多くの皆様から来館いただいています。

目下、十一月十一日の短歌大会に向けて追い込みの作業中ですが、皆様からのご協力もあって、一般の部では八年ぶりに一千首の大台をクリアすることとなりました。選者をお願いした先生方には多忙を極める中でジュニアの部を含め一万首超の作品に対しての作業、非常な負担をおかけすることとなります。

夏らしい暑さもないまま・・魚沼は秋、あっという間に刈田が並ぶ景色となりました。

紅葉の魚沼へ・・皆様のお越しを職員一同お待ちしております。

宮柊二記念館開館二十五周年記念

「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展

宮柊二は歌を「生の証明」と考え、人生そのときそのときを読みつづけ、集大成を歌集として残しています。

平成二十九年度は、宮柊二記念館が平成四年十一月に開館してから二十五周年の節目の年を迎えることとなりました。

今回は、「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」として、開館二年目に開催した企画展示をリニューアルして展示しております。開館二年目に開催した前回の「歌集でたどる宮柊二の生涯」では、全ての歌集を一度に展示したため歌集ひとつあたりの展示スペースが少なくなってしまいましたが、今回は前半と後半に分けて展示しております。

現在の展示は十一月までの予定で、第一歌集『群鶏』から第六歌集『多く夜の歌』までを展示しております。後半は十二月に展示替えし、第七歌集から第十二歌集までを展示する予定です。

宮柊二の生涯を歌集という視点で紹介している展示をご覧ください。

『群鶏』『山西省』の頃

第一歌集『群鶏』は、昭和十年六月から十四年八月までの短歌六二八首を収録しています。第二歌集『山西省』は昭和十五年一月から十八年十二月までの短歌六二八首を収録しています。

宮柊二のもとに召集令状が届いたのは昭和十四年八月のことです。師・北原白秋をはじめ多くの人たちに励まされ、出征した先は中国の山西省。柊二の任地は東寒鎮という寒村で、戦局は厳しく、たびたび激しい戦闘にも巻き込まれたといいます。

柊二はこの間、短歌を作り続けました。その歌を歌集『山西省』にまとめました。

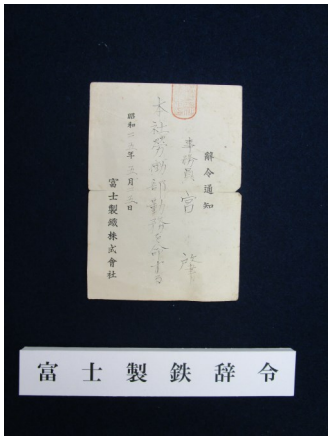
『山西省』は検閲によって一度は出版差止めに追い込まれたため実際の発行は『小紺珠』の後に刊行されています。

展示資料から

柊二は昭和14年に白秋の秘書を辞し、川崎の富士製鉄所に勤めます。戦後はそこに復職しますが、昭和25年に富士製鉄の日本橋本社に転勤を命じられ、退職まで勤めることとなります。この資料はそのときの辞令で、今回はじめて展示されました。

戦後復興期の本社勤務でもあり、仕事も多忙であったことが想像されますが、そんな日々のなかで、夜には歌人として活動をしていたことは、あらためて驚くべきことといえるでしょう。

昭和26年には、杉並区高井戸の社宅に引越すこととなります。その社宅の前にあった大きな竹林が、何度も歌の題材になっています。



『小紺珠』『晩夏』の頃

第三歌集『小紺珠』は昭和二十一年一月から二十三年六月までの短歌四五六首を収録しています。第四歌集『晩夏』は昭和二十三年四月から二十五年十月までの四七七首を収録しています。

新しい時代をむかえ、柊二も短歌の担い手の一人として期待をされました。

一方で、家族を養う責任もあり、戦前から勤めていた会社でのサラリーマン生活を続けます。

戦後の混沌とした時代、柊二は昼夜とも多忙な日々を過ごすこととなるのです。

そんな時期に発行したこの二冊の歌集は、歌壇にその存在を強くアピールしたといえます。

『日本挽歌』『多く夜の歌』の頃

第五歌集『日本挽歌』は昭和二十五年十一月から二十八年三月までの短歌三〇六首を収録しています。第六歌集『多く夜の歌』は昭和二十八年三月から三十六年一月までの短歌一、二五一首を収録しています。

『日本挽歌』が刊行された昭和二十八年、コスモス短歌会がスタートします。昼は会社員として、夜は歌人として、そんな二足のわらじをはいていた時期です。夜の時間には自らの作歌のほかに、年々増加するコスモスの会員の歌を指導するなど、とても多忙に過ごした時期でした。

昭和三十四年に会社を退職し歌人に専念することになりますが、その時期までの歌が『多く夜の歌』に収録されています。

歌集発表頃の年譜

昭和 8年 4月	はじめて北原白秋を訪ねる。
昭和14年 5月	川崎の富士製綱所に入社。
8月	召集令状が届く。高田の歩兵第30部隊に入隊。
12月	中国山西省に入り、警備及び戦闘に参加。
昭和18年10月	召集解除。富士製鉄所に復帰する。
昭和19年 2月	滝口英子と結婚。
昭和21年11月	歌集『群鶏』（青磁社）刊行。
昭和23年10月	歌集『小紺珠』（古径社）刊行。
昭和24年4月	歌集『山西省』（古径社）刊行。
昭和25年5月	富士製鉄（社名変更）本社へ転勤。
昭和26年6月	歌集『晩夏』（白玉書房）刊行。
昭和28年1月	コスモス短歌会結成記念歌会を開催。
10月	歌集『日本挽歌』（東京創元社）刊行。
昭和35年10月	富士製鉄を依願退職。
昭和36年11月	歌集『多く夜の歌』（白玉書房）刊行。

オープニングセレモニーより

宮柊二歌集」概観

五月十三日に、「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展のオープニングセレモニーを開催しました。当日は、テープカット、市長あいさつに続き、歌人で宮柊二記念館運営委員でもある狩野一男先生から「『宮柊二歌集』概観」と題し、記念講演をしていただきました。

狩野先生からは、宮柊二との思い出話を交えながら、全歌集の中から抜粋した歌を解説いただきました。

なお、「歌集でたどる宮柊二の生涯Ⅱ」展は、平成三十年三月末まで開催する予定です。まだご覧になっていない方は、ぜひお立ち寄りください。

記念講演の狩野先生。貴重なお話しをお聞かせいただきました。

第二十三回宮柊二記念館全国短歌大会

応募総数は一万二千首以上

今回で二十三回となる短歌大会は十一月十一日に表彰式を行います。応募状況は、一般の部で一、一〇三首、ジュニアの部で、一万千首を超える数となりました。

近年、若者向けのテレビ番組が短歌を題材として取り上げるなど、子どもたちが短歌に親しむ機会が増えていると感じます。昨年と比べて中学生の応募作品数は千首以上多くなりました。また、昨年度は記念館事業として初めて高校に出前授業で呼ばれたりと伝統的文芸である短歌学習にさまざまな学校が取組まれているためだと思います。

選歌をお願いしました高野公彦先生と米川千嘉子先生には大変な難儀をおかけいたしましたが、作品数が多くなった分優れた歌も増えていると期待しています。

第二十三回　宮柊二記念館全国短歌大会　表彰式

◎日　時　平成29年11月11日（土）
　　12:30～15:00
◎会　場　魚沼市堀之内公民館　大ホール
　　宮柊二記念館隣り
◎内　容　①選者講評
　　②表彰式
◎交　通
〔車〕　関越自動車道　堀之内IC　3分
〔鉄道〕　上越線　越後堀之内駅　車で3分･徒歩15分
◎その他
記念館において特別賞受賞者の短歌色紙を展示します。

短歌大会　応募状況

区分	応募作品数
一般の部	1,103首
ジュニアの部	11,175首
（小学生）	2,558首
（中学生）	4,470首
（高校生）	4,147首
総計	12,278首

短歌大会　選者ご紹介

よねかわちかこ

米川千嘉子さん

１９５９年、千葉県生まれ。大学在学中に短歌をはじめ、「かりん」入会。馬場あき子に師事。歌集に『夏空の櫂』『たましひに着る服なくて』『滝と流星』『あやはべる』『吹雪の水族館』など。現代歌人協会賞、若山牧水賞、短歌研究賞、迢空賞など受賞。歌書に『四季のことば１００話』『親子で楽しむ子ども短歌教室』『「無名抄」を読む』（共著）ほか。毎日歌壇選者。

たかのきみひこ

高野公彦さん

１９４１年、愛媛県生まれ。大学在学中に作歌を始め、「コスモス」に入会し、宮柊二先生に師事。卒業後、出版社編集部に勤務した。現在「コスモス」選者・編集人。これまで『汽水の光』から『流木』まで十五冊の歌集を刊行。ほかに評論集『地球時計の瞑想』『歌の回廊』、秀歌鑑賞書『わが秀歌鑑賞』『わが心の歌』、入門書『短歌練習帳』など。２０１１年より新潟日報歌壇の選者。

平成29年度前期事業

年度の前半が終わって秋の深まるなか、今年度前半の事業を振り返ってみました。その一部をご紹介いたします。

コスモス新潟県支部吟行会来館

６月１６日、コスモス新潟県支部吟行会の方が記念館に来館されました。

森山学芸員が今年度の企画展示について説明し、皆様から展示作品一つ一つを熱心にご覧いただきました。

宮柊二講座講演会

７月２３日、コスモス選者であり長らく当館短歌教室でご指導いただいたている岡崎康行先生をお迎えし「『小紺珠』の周辺」と題して講演いただきました。

歌集『山西省』を通じて柊二と出会ったことや、文法面を中心に解説され、今後の実作のなかに活かそうと参加者の皆さんの真剣な姿勢が感じられました。

魚沼市内中学校教員来館

８月１日、市内の中学校に勤務される国語教員の方が記念館に来館しました。

宮柊二の生涯について資料をご視聴いただき、企画展示をご覧いただきました。

記念館を初めて来館された方もおり、展示資料をじっくりとご覧いただきました。

俵山庸作絵画展

８月５日～８月２０日、当館エントランスを利用して俵山庸作絵画展を開催しました。柊二が好んだ八海山を中心に展示させていただきました。今回展示した作品は平成１３年、堀之内から転出するにあたり、当時の堀之内町に寄贈していただいたものであり、長らく資料室で保管されていたものや堀之内庁舎ロビーなどに展示していたものです。　期間中は大勢の皆様から鑑賞いただくことができ嬉しく思います。

ジュニア短歌教室

８月８日、ジュニア短歌教室を開催しました。

毎年、記念館内で開催しておりましたが、今年は記念館を飛び出して小出ボランティアセンターで開催しました。

夏休みの宿題や自由研究の課題として、短歌作成に親しんでいただけました。参加した子どもたちは、大人顔負けの力作や子どもの感性をいかしたほのぼのとした作品を作っていました。

坂西徹朗版画展

９月９日～９月２４日、当館エントランスで坂西徹朗版画展を開催しました。

山の人と呼ばれる坂西さんにふさわしい「八海山の四季」というテーマでの展示となりました。

坂西さんのご意向で、外からも見えるように、記念館玄関前にも作品を展示させていただきました。

宮柊二　印・印譜

（第二展示室展示中）

宮柊二記念館収蔵資料紹介　ＮＯ．４７

記念館には柊二が使っていた印が多く残されています。印材も、石製、木製、陶製などさまざまです。

柊二の印には、時代によって頻繁に使われたものもあり、若い頃の書には木製の「美也」の印がほとんどですし、晩年には、歌集名にちなんだ「忘瓦亭」の印も見られます。

館内に展示中の書軸に押されている印を、この印譜から探してみるのはいかがでしょう。

「宮柊二略年譜」可動式に

第一展示室入口前ロビーに設置していた「宮柊二略年譜」を改修し、第二展示室内に移動できるようになりました。第二展示室に移動させることによりロビーを広く展示スペースとして活用できるようになりました。

第二展示室に移動した略年譜

「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、会員を募集しています。年会費は1，000円です。

くわしいことは、宮柊二記念館にお問い合わせください。

宮柊二記念館だより　第47号
発　行　2017.10.31
問合せ　宮柊二記念館（〒949-7413　新潟県魚沼市堀之内117-6）　TEL・FAX　025-794-3800
メール　miya-museum@city.uonuma.niigata.jp　ホームページ　http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji